

この四月号より、毎月一つずつ、生活教育の実践を支えているキーワードやキーフレーズを紹介、解説していきます。若い世代に、「生活教育」や「日本生活教育連盟」を自己紹介するつもりで書いていきます。

といつても何かかつちりした日生連の公式統一見解を書いていくのではなく、いっしょに考えていくきっかけにしたいのです。生活教育の実践と理論は、その豊かさ豊潤さに特徴があり、結論としてまとまっていないカオス（混沌）の面がたくさんあります。時に対立する見方や「誤解」までもが混在しています。

歴史的で基本的な事実はおさえつつ、3・11後の課題にも正面から応えるものにしたいたい。論争的な部分は整理せず、興味をもった読者が次の一歩をとりやすいように文献も紹介します。

例えば「デュイイ」とみれば、「『学校と社会』とか「児童中心主義」などと線で結ぶだけのような「学び」が教員採用試験対策だけでなく、大学の教育や教職課程の中にもどんどん入ってきています。そういう

生活教育 キーワード

ものではなく、デュイイの本を実際に読んでみて自分で考えること、子どもたち生徒たちを思い浮かべ、自分の生き方ともつながるものとして学んでいくこと……ああ、これがもう生活教育ですね。

生活教育の理論は、教育学の特殊な一部ではなく、教育学の骨格そのものともいえます。生活教育入門は実は教育入門なのです。

「理論」と聞くと難しく思われるかもしれませんが、自分のやっていることの意味や悩みを「相談」する、アドバイスをヒントとして読むと理解しやすいでしょう。デュイイは心強い仲間なのです。その仲立ちをしたいと思います。

今後、「デュイイ」「ペスタロッチー」「ルソー」「教育基本法」「地域に根ざす」「生活指導」「子どもの根っこ」など取り上げていく予定です。乞うご期待！

（研究部・加藤聡二）